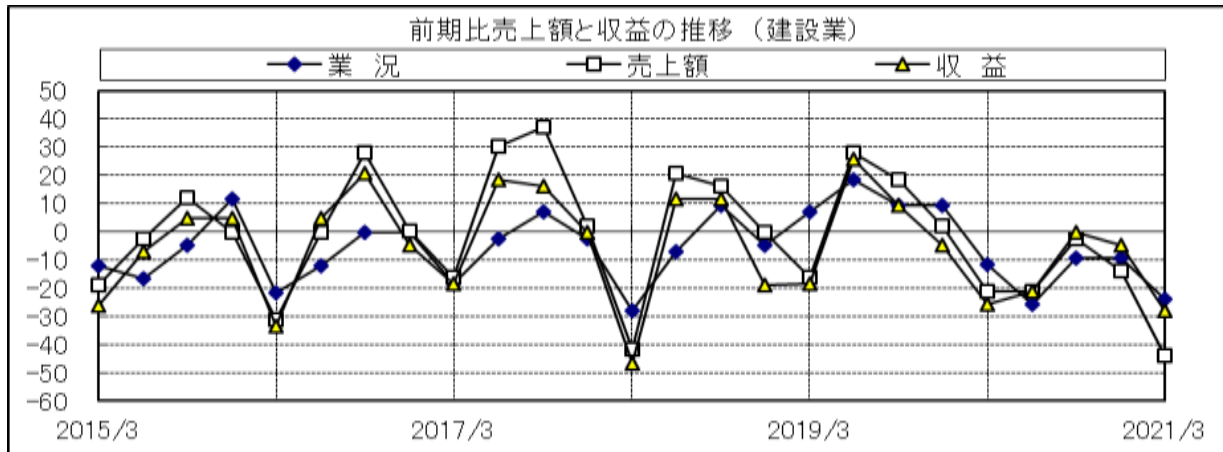


建設業 43 企業 (回答率 100.00%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-9.3	-9.4	-23.7	-7.0
売上額	-2.3	-14.0	-44.1	-4.7
収 益	0.0	-4.6	-27.9	-2.4

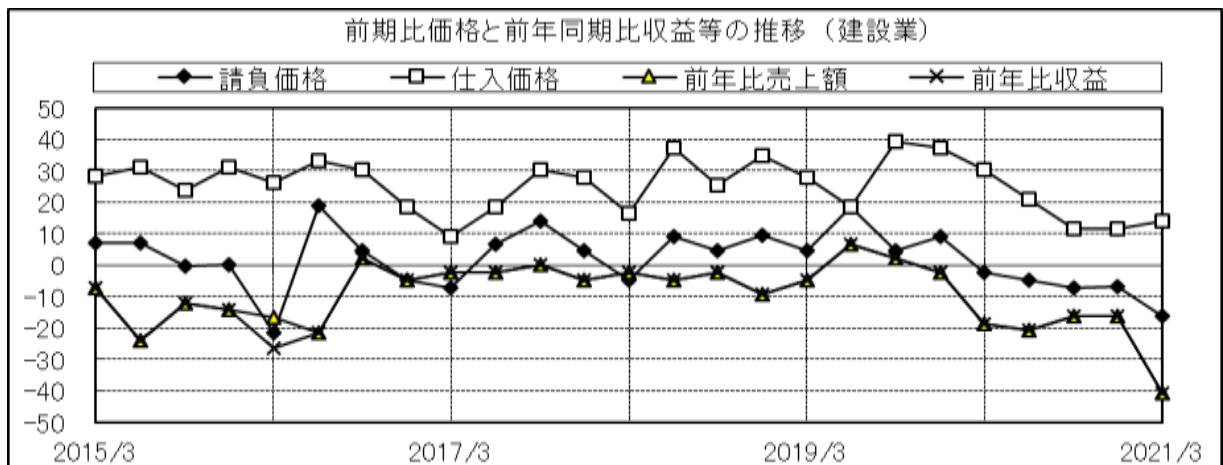
今期の業況判断 D. I. は $\Delta 23.7$ で、前期比 14.3 ポイント下降、前年($\Delta 11.6$)比では 12.1 ポイント下降した。地区別 D. I. の水準は高い順に、様似が最も高く、次に浦河、静内、広尾、三石と続き、えりもが最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は、 $\Delta 44.1$ で、前期比 30.1 ポイントの下降となった。収益判断 D. I. は $\Delta 27.9$ で、前期比 23.3 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
請負価格	-7.0	-6.9	-16.2	-16.2
仕入価格	11.7	11.7	14.0	14.0

請負価格判断 D. I. は $\Delta 16.2$ で、前期比 9.3 ポイント下降、前年($\Delta 2.3$)比 13.9 ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は 14.0 で、前期比 2.3 ポイント上昇、前年(30.2)比 16.2 ポイントの下降となった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-9.4	16.3	6.9	-11.6
人手状況	-21.0	-37.2	-20.9	-16.3

残業時間判断 D. I. は 6.9 で、前期比 9.4 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 20.9$ で、前期比 16.3 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

□ 設備投資の動き

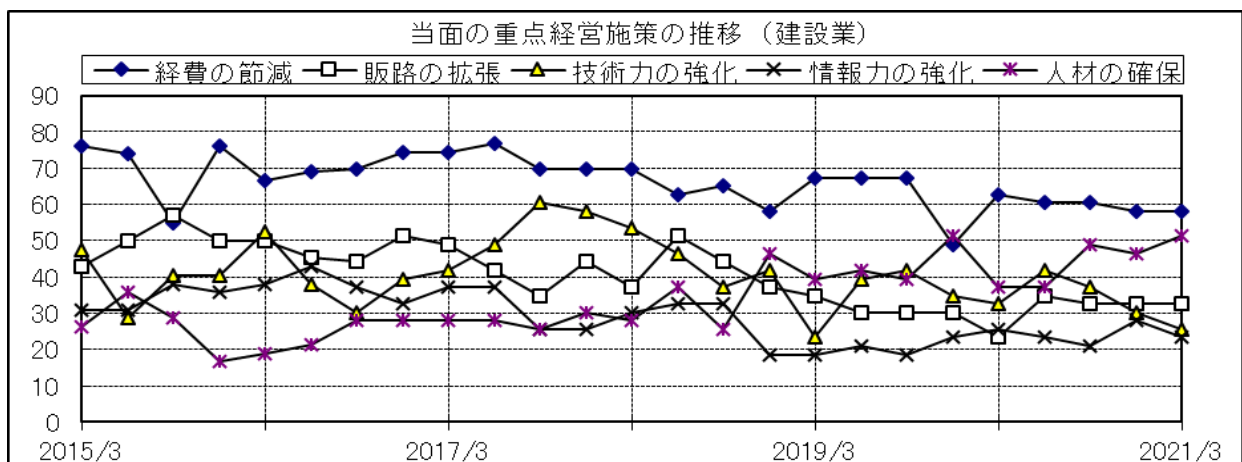
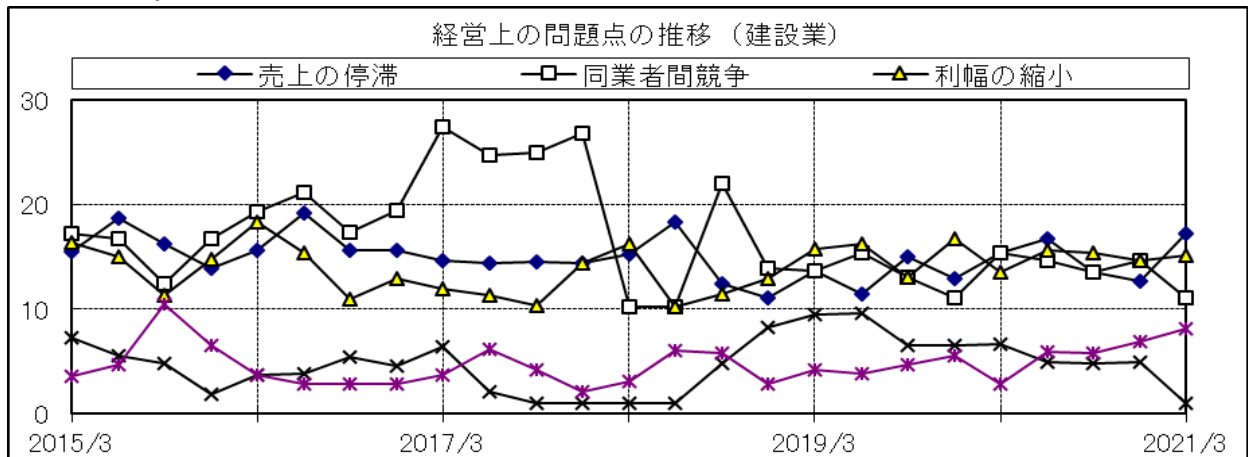
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 4.7$ で、前期($\Delta 4.7$)と同水準となった。

設備投資実施企業割合は7.0で、前期(14.0)比7.0ポイント下降した。設備投資は、前期6社に対し、3社の実施となった。来期の設備投資は、8社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」・「人手不足」が同率の17.2%と最も多く、次に「利幅縮小」が15.2%、「同業者競争」11.1%、「材料価格上昇」・「地場産業衰退」が8.1%、「技術力不足」6.1%、「下請確保難」5.1%、「天候不順」4.0%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」58.1%が最も多く、次に「人材確保」51.2%、「販路拡大」32.6%、「技術力強化」25.6%、「情報力強化」23.3%、「教育訓練強化」11.6%、「労働条件改善」7.0%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 7.0$ と、今期比16.7ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 4.7$ と、今期比39.4ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 2.4$ と、今期比25.5ポイントの上昇を見通している。

予想請負価格判断D. I. は $\Delta 16.2$ と、今期と同水準を見通している。

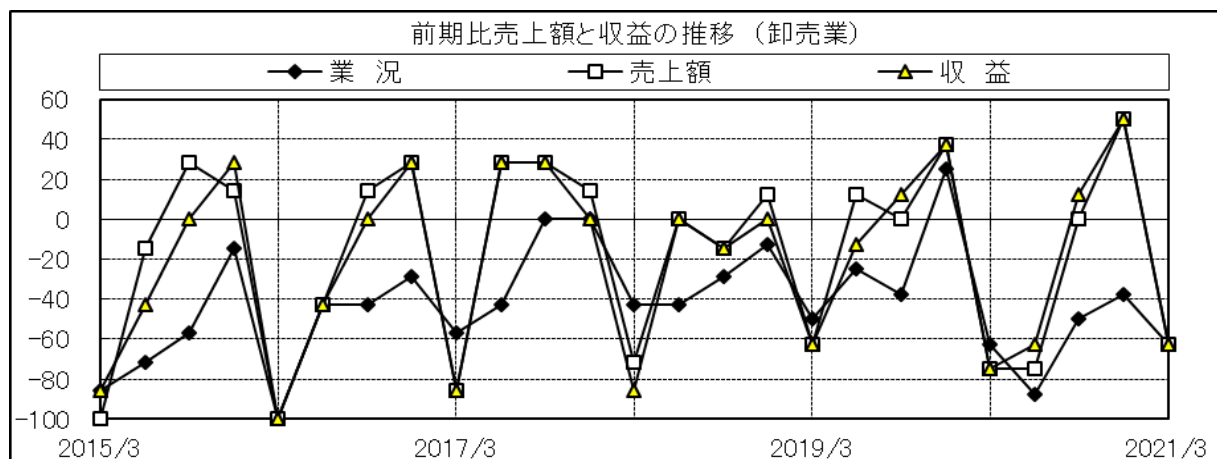
予想仕入価格判断D. I. は14.0と、今期と同水準を見通している。

卸売業 8企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業況	-50.0	-37.5	-62.5	-50.0
売上額	0.0	50.0	-62.5	-12.5
収益	12.5	50.0	-62.5	-12.5

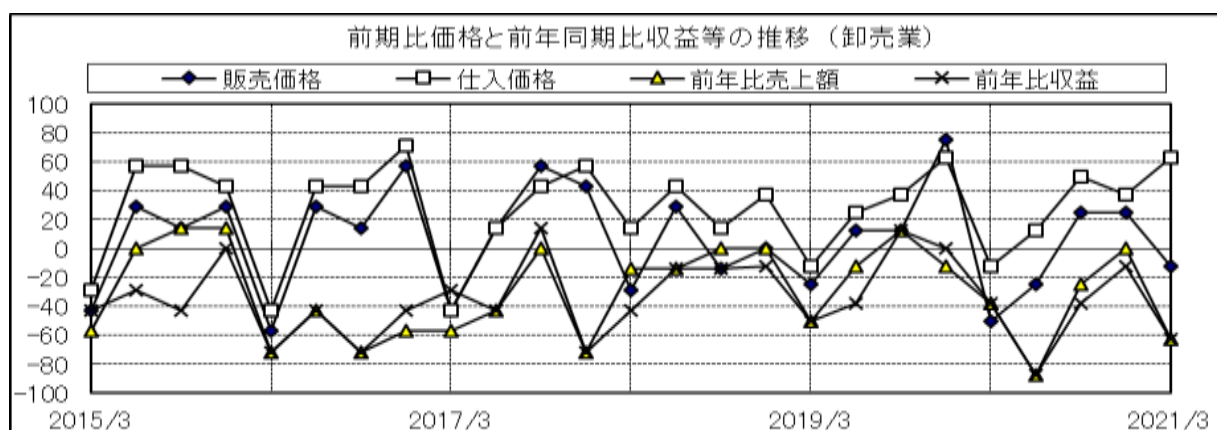
今期の業況判断 D. I. は△62.5 で、前期比 25.0 ポイント下降。前年(△62.5)と同水準となった。地区別の水準は、浦河・様似地区は同水準、静内地区は下降した。売上額判断 D. I. は△62.5 で、前期比 112.5 ポイント下降した。収益判断 D. I. は△62.5 で、前期比 112.5 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	25.0	25.0	-12.5	37.5
仕入価格	50.0	37.5	62.5	12.5

販売価格判断 D. I. は△12.5 で、前期比 37.5 ポイント下降。前年(△50.0)比 37.5 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 62.5 で、前期比 25.0 ポイント上昇。前年(△12.5)比 75.0 ポイント上昇した。業種別では、水産業は販売・仕入価格ともに下降、食品業は販売価格が下降、仕入価格は上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	0.0	0.0	-37.5	-12.5
人手状況	0.0	0.0	-25.0	-37.5

残業時間判断 D. I. は△37.5 で、前期比 37.5 ポイント下降、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断 D. I. は△25.0 で前期比 25.0 ポイント下降、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

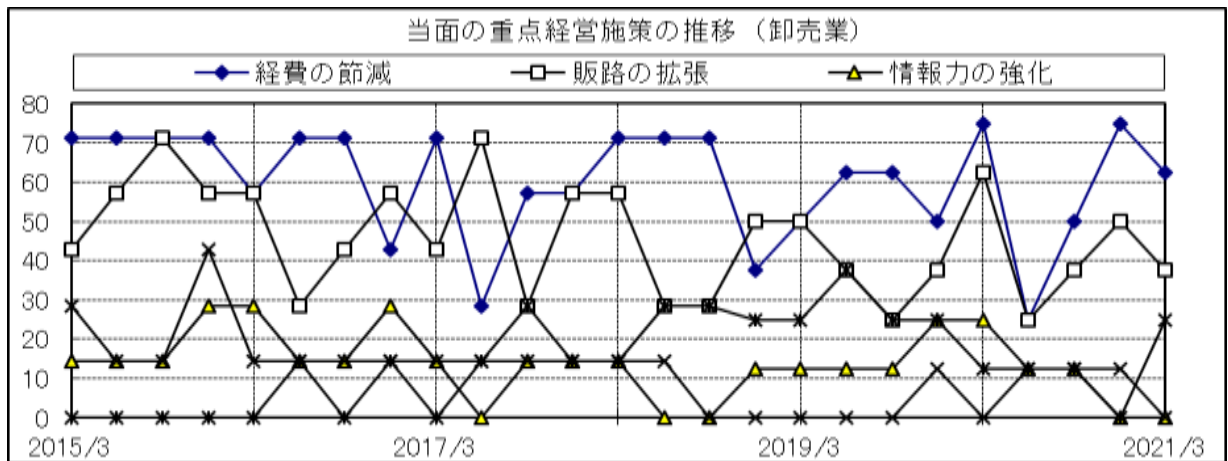
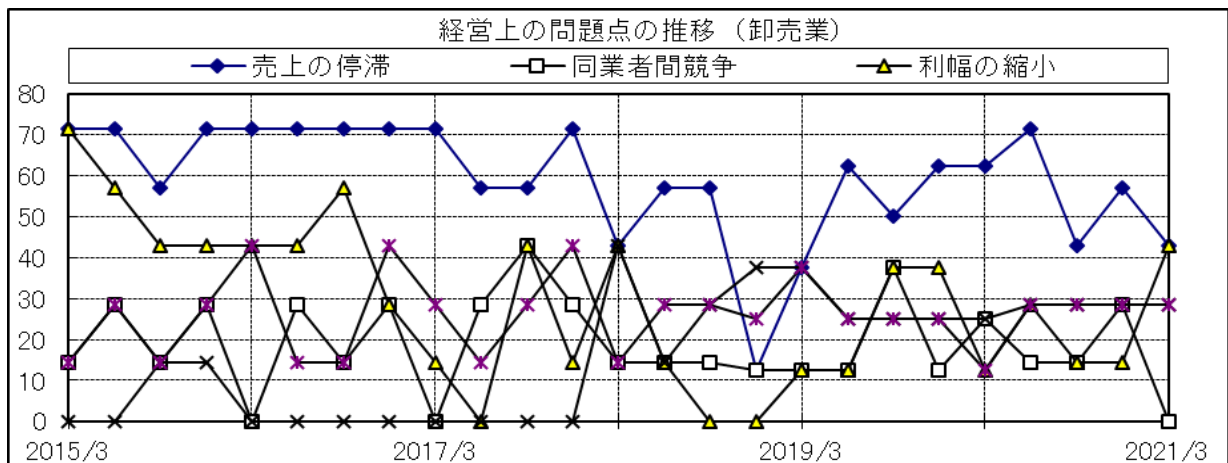
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 12.5$ で、前期と同水準となった。

設備実施企業割合は0.0で、前期比12.5ポイント下降した。設備投資は、前期1社に対し、実施企業はなく、来期の設備投資予定は1社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」・「利幅縮小」・「店舗老朽化」が同率の42.9%と最も多く、次に「取引先減少」・「地場産業衰退」が28.6%、「人手不足」・「値上要請」・「地価高騰」が14.3%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が62.5%と最も多く、次に「販路拡大」37.5%、「人材確保」・「不動産有効活用」が25.0%、「品揃えの充実」・「新事業開始」・「輸入品取扱い増」が12.5%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 50.0$ と、今期比12.5ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 12.5$ と、今期比50.0ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 12.5$ と、今期比50.0ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は37.5と、今期比50.0ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は12.5と、今期比50.0ポイントの下降を見通している。